

日本プラスチック工業連盟 海洋プラスチック問題の解決に向けた「宣言活動」
事例報告書（2020年度）

企業・団体名： 積水成型工業株式会社

具体的な取組み事例

2020年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、地域やNPOなどの活動が全て中止となり、社内各事業所で定期的実施している活動のみになりました。

海洋プラスチックごみを減らすために我々の出来ることとして、問題意識の共有化や3Rの推進、樹脂ペレットや油分を河川など事業所の外に流出させないための定期訓練(写真-1、写真-2)、各事業所周辺の清掃などを実施しています。



写真-1 ペレット流出防止訓練



写真-2 油流出防止訓練



写真-3 各事業所周辺清掃

日本プラスチック工業連盟 海洋プラスチック問題の解決に向けた「宣言活動」
事例報告書（2019年度上期）

企業・団体名； 積水成型工業株式会社

具体的な取組み事例

弊社が取組んでいる環境貢献活動について、主に弊社各工場が行っている取り組みを紹介します。

弊社には5つの工場があり、夫々の地域に合わせた活動を行っています。出雲工場（島根県 出雲市）では、宍道湖・中海の一斉清掃に参加しています。宍道湖と中海はラムサール条約湿地として登録されており、その趣旨である“保全・再生”、“賢明な利用”、そして“交流・学習”を目的に島根・鳥取両県の沿岸自治体などが協働で開催している行事で、毎年6月に7,000人規模で行われています。出雲工場は、今年で11回目の参加になりますが、家族で参加する人や本社(大阪)から参加する人など参加人数も次第に増え、今年は50人で湖岸のごみ回収を行いました。ごみの種類は様々ですが、ポリ袋やペットボトル、発泡スチロールなどのプラスチックごみが沢山漂着していました。今年、宍道湖・中海沿岸で回収された総重量は、12トンだったそうです。（写-1）

海洋プラスチック問題との関係ですが、宍道湖・中海は、一部が海に開けており、これらのプラスチックごみが日本海に流れ出る可能性は低くありません。プラスチックごみは、海から遠い地域であっても河川を通して海に流れ込むリスクがあることを認識する活動としています。

他のラムサール条約湿地では、関東工場（茨城県 古河市）が、「渡良瀬遊水地クリーン作戦」に参加しています。渡良瀬遊水地は、茨城・栃木・群馬・埼玉の4県にまたがっており、6つの自治体を拠点に毎年4月、清掃活動が行われています。今年に関東工場から13人が参加しました。この地域も内陸部ではありますが、渡良瀬川、利根川を経て太平洋に繋がっています。（写-2）

その他、内陸部の工場として兵庫工場、兵庫滝野工場（共に兵庫県 加東市）があります。この2工場とも近隣の河川が瀬戸内海に通じていることを意識して、工場周辺の側溝や河川でのごみ拾いを行っています。（写-3・4）

海に近い千葉工場（千葉県 匝瑳市）では、既に海に流れ出たプラスチックごみなどを回収しています。九十九里浜での漂着ごみ清掃です。今年、7月に15人が清掃にあたりました。（写-5）

各工場とも年に一度のイベントや毎月のクリーンデーなどで工場周辺の清掃活動に取り組んでいますが、一方では、自工場からのペレット・油流出防止策としての訓練にも注力しています。

自然災害や事故によってプラスチックペレットや油などが工場の外に流出しないように全ての工場で年2回の訓練を実施しています。（写-6）



写-1 宍道湖クリーン活動



写-2 渡良瀬遊水地クリーン作戦



写-3 近隣河川のごみ拾い



写-4 工場周辺ミソ掃除



写-5 九十九里浜清掃活動



写-6 ペレット流出防止訓練